



1年の折り返し～基本を大切に！

先日の朝会（放送）では、『実るほど こうべを垂れる 稲穂かな』の話をしました。稲の成長とともに中身（米）がしっかり育ってくれば、稲穂はどんどん重くなり、頭を垂らした姿勢になっていきます。この様子を人の成長にたとえて、中身がしっかりした人ほど謙虚な姿勢になる、自分自身を成長させて立派な稲穂のようになってほしい、と話しました。東中学校の周辺の田んぼには金色の素晴らしい景色が見られます。身近なところの美しさを見逃さない、何気ない日常の景色でも美しいと感じるその心を大切にしましょう。



そこに美がある！

さて、ここで新人体育大会川越市予選会が行われました。2年生と1年生は、3年生から受け継いだ「思い」を胸に、どの部も精一杯試合に臨んだことと思います。結果も一つの成果ですが、そこに向けた努力は何ものにも代えられません。大会が終わったところで、もう一度「基本」に立ち返り、次の段階に向けていきましょう。



校長室前に掲示している「守・破・離」

そこで、よくさまざまな取組に対して「その道を究める」などと言いますが、今後の取組としてこのような気持ちは大事です。この言葉は物事の条理や道理、手立て、手法などという精神文化の意味合いを持たせることが多いですが、1500年代後半に活躍した千利休という茶人は、茶道における決めごとや作法について「守・破・

離」という段階を設けて指導したと言われていています。校長室の前にも貼ってあるので、この言葉を見ている人は多いと思います。ぜひともその意味を知ってください。

最初の「守」とは、その道を究めるにあたって、ひたすら師（先生）の教えに従い、流儀（基本）を守り、繰り返し学ぶことで、しっかりと基本を身に付ける段階です。

続いて「破」とは、今まで学んだ基本の概念を打ち破り、試行錯誤しながら自分なりの独創性を見出していく段階と言われます。

そして「離」とは、様々な経験を積み重ねていく中で、いつしか従来の型から脱して、独自の方法を発見し、これまで磨き上げてきた自分の発想など、独自性を発揮し、自分だけのスタイルを確立していく段階となります。

10月になり1年間の後半に入りました。部活動も学習活動も、基本に立ち返り「守」、多くの練習や経験を重ねて「破」、最後は『自分のスタイル』『離』を導き出し、自分を高める。このような志を持って、一人一人の後半のさらなる成長を期待しています。